

学校以外の学びの場

フリースクールなど民間の相談・指導施設との連携の一層の充実に向けて②

北海道教育庁学校教育局
義務教育課子ども地域支援グループ

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」及び「基本指針」を踏まえ、多様な教育の機会の確保に向け、教育委員会・学校とフリースクール等の民間団体との一層の連携が進められています。

道教委が実施している不登校児童生徒への支援や生徒指導に関する協議会等に、フリースクールなどの民間施設の職員が参加し、学校・教育委員会職員と不登校児童生徒への支援の在り方についての協議等を通して連携を深めています。また各管内・市町村・学校でも、学校・教育委員会と民間施設の職員が不登校や教育相談、生徒指導などに関する研修・会議で意見交換を行うなど、連携を深め、支援の充実を図る取組が進められています。道教委の研修・会議の様子を紹介します。

民間施設と学校・教育委員会等の職員による研修・会議

～「不登校児童生徒支援連絡協議会」を開催しました～

道教委では毎年12月に、札幌を会場に、道内の学校・教育委員会・適応指導教室（教育支援センター）の職員、教育相談員等の関係者の参加による、不登校児童生徒の支援の在り方について協議する「不登校児童生徒支援連絡協議会」を開催しています。

平成19年度からは、フリースクールなどの民間施設の職員も参加し、事例発表やグループ協議等を通じて、関係者で不登校への対応についての現状や課題について相互理解を図るとともに、支援の充実に向け、連携した取組を進めています。今年度は12月26日（水）、札幌市の道庁別館で全道から教育支援センター（適応指導教室）の指導員、学校・教育委員会の職員の他、フリースクールからの4施設・5名も含め、約130名の参加で開催しました。

前半は、不登校児童生徒の状況、不登校児童生徒が民間施設等で相談・支援を受けている場合の指導要録上の出席の扱いなど、学校・教育委員会との連携の在り方についての説明、「フリースクール札幌自由が丘学園」「稚内市学校適応指導教室」から学校・教育委員会と施設の連携した取組についての実践発表が行われました。

後半は、7～8名のグループに分かれ、それぞれの立場から、これまでの取組事例を紹介したり、連携の方策や在り方について意見を交わしたり、不登校児童生徒・保護者への相談や支援等について、関係者がどのように連携して取り組んでいくべきかを話し合いました。

《「札幌自由が丘学園」の実践発表の概要》

- ・**教育課程について**…中学生に対しては、五教科を中心に「テーマ研究」や「創造活動」等の独自の教科・活動を加えて設定した週時間割を基本に、一人一人の生徒の状況・希望に応じた学習活動を提供している。
- ・**中学校との連携について**…毎月、出欠状況とともに学習や体験活動等の状況を記載した報告書の送付に加え、相互に電話や訪問での情報交流、生徒の進路に関する相談等で連携を深めており、多くの生徒が在籍校で出席扱いとなっている。
- ・**学校復帰について**…学校復帰のみを目指すのではなく、生徒それぞれの状況に応じた自立・成長のために必要な支援を行うことが大切と考える。登校刺激を行わずとも、生徒が施設での様々な学習・体験を通して成長し、在籍校への思いが前向きに変化している事例や、自ら中学校に復帰した事例もある。また、ほぼ全ての卒業生が高校に進学している。生徒一人一人の成長や可能性を信じて、焦ったり、無理強いしたりせず、待つてあげることが大切と感じる。



＜新藤理氏＞

平成29年3月発行の「フリースクールなど民間の相談・指導施設の活動事例」に「札幌自由が丘学園」の活動事例を掲載しています。⇒ (<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kcs/free/jireisyuu.pdf>)

道内のフリースクールの活動事例を紹介します

取組 2

一社)函館圏フリースクール 「すまいる」

函館市富岡町 2 丁目 19-5

- **運営方針** : ●不登校やひきこもりとその傾向のある児童生徒が安心できる居場所と学びの機会を提供する。
●子どもが主体となる居場所づくりにより、子どもの健全な育成と、生涯学習の推進に寄与する。
- **指導対象** : ●小学生・中学生・高校生・その他
- **指導形態** : 通所、訪問
- **スタッフ** : 代表理事(教員免許保持者)、理事 2 名、ボランティア 5 名
- **指導内容** : ●指導方針 : 生きる力や学ぶ意欲を育み、自立への成長を促す
●教科学習 : 本人の希望で設定した学習内容の少人数・個別指導
●体験学習 : 子どもの運動機能や体力向上のための学習活動、社会性の育成を図る交流活動等
- **費用** : 年会費(保険料込み) 10,000 円/年、基本料 5,000 円/月、支援・訪問 2,500 円/1 時間、教材費別途負担等
- **学校との連携** : 在籍校と定期的に支援内容について相談し、活動内容を報告するなどの情報共有
市内中学校の要請により校内研修に参加
- **ホームページ** : <http://hakodate-smile.jimdo.com/>



道内の民間の相談・指導施設の活動事例を紹介します

取組 2

『フリースペース』という「居場所」づくり

施設に通所し学習する子どもだけでなく、心身ともに不安定になりやすい時期の子どもたちが安心してくつろげるような「居場所」づくりを大切にする動きが全国で広がっています。

道内においては、「一社)函館圏フリースクール『すまいる』」で月曜日から木曜日の午前 10 時から午後 3 時まで、読書やゲーム、調理など自由に過ごせる「フリースペース」を開設しています。毎日 15 名程度が利用し、自主学習や工作、運動などに取り組んでいます。また、不登校やひきこもりなどについての電話や面談での相談、施設を利用する子どもたちが参加できるレクレーション事業や毎週カフェ形式の保護者相談会も行っています。施設のスタッフは、利用している子どもたちの自主性を尊重しながら、悩みや不安を受けとめ、和らげるようサポートに努めています。

不登校児童生徒と家族にとって、社会的自立や学校復帰に向け、休養や自分を見つめ直したり必要な情報提供や助言、支援を受けたりできる、様々な居場所があることが大切です。※各施設の活動内容については、各施設のホームページ等で確認することができます。

各施設のHPは道教委のHP「フリースクールなど民間の相談・指導施設一覧」のリンクから閲覧できます。※下記QRコードまたはアドレス等を参照



- 北海道教育委員会では次のような情報をHPに掲載しています。
 - ・連携している道内フリースクールなど民間の相談・指導施設の一覧(施設のHPにリンクしているものもあります)及び活動事例
 - ・北海道教育委員会のフリースクールなど民間の相談・指導施設への支援に関する情報
道教委HP <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/freeschool/index.htm>
《子ども地域支援グループHP

